

「明治大学現代マンガ図書館所蔵マンガ本目録データ作成事業」 学校法人明治大学

概要／課題

明治大学現代マンガ図書館は、国内でも最大級の蔵書をもつマンガ専門図書館です。設立者の故・内記稔夫（ないきとしお）氏が半世紀にわたり収集したマンガの単行本や雑誌、関連資料 27 万点を保有し、マンガ研究及びメディア芸術振興拠点のひとつとなるべきものと言えますが、平成 21(2009)年に本学が寄贈を受けた時点で目録は紙の状態でバインダーにて管理されており、デジタルデータ化されていませんでした。目録を利用するためには来館が必要で、その活用には制限がありました。

本事業では、現代マンガ図書館所蔵マンガ本の目録データを作成し、目録データベースの構築を進めることで、資料検索及び利用の利便性を高め、マンガ研究の一層の発展に貢献することを目的としています。

体制／手法

平成 23(2011)年から目録のデータ化に取り組み、現代マンガ図書館スタッフと外部の専門事業者との連携により、令和 4(2022)年現在、19 万冊が登録されています。

成果

従来、支援事業の成果物は、明治大学学術成果リポジトリにてファイル公開していましたが、令和 3(2021)年 3 月より、現代マンガ図書館ホームページからリンクする「蔵書検索システム」でも検索を可能としました。

目録をデジタルデータ化し、インターネットで検索を可能とすることにより、どこからでも来館することなく現代マンガ図書館所蔵本の検索が可能となり、レファレンスサービスによる資料の確認や、同年より提供を開始した郵送複写サービスにより、複写物の入手が可能となりました。その結果、北海道や近畿地方の研究者から、雑誌掲載のみで単行本化されていない作品や、入手が困難な昭和 30 年代の貸本に掲載された作品の複写依頼への対応をするなどができ、マンガ研究の発展に寄与しています。このほか、マンガ作品のみならず、雑誌に掲載された広告の調査により、その時代における文化・社会的ムーブメントの一端が確認された例や、新刊本の紙面に現代マンガ図書館所蔵資料の活用がされる例などがあり、新しい知の創出に貢献しています。

今後の課題

保有する 27 万点の内、本年度完了時、まだ 8 万点の未整理資料を抱えており、登録の完遂を目指しデータ作成作業を継続することを予定しています。また、明治大学には、現代マンガ図書館以外にも 14 万点のマンガ関連資料を保有する米沢嘉博記念図書館があり、現代マンガ図書館の 19 万点と合わせて 33 万点の目録の総覧、検索を可能とすべく検討に着手しています。また、メディア芸術データベースとの連携により、参加している各館での欠本資料の相互補完や同定資料の刷り版による差分検証等、より深い研究への寄与を目指しています。

以上